

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470500408		
法人名	社会福祉法人 長陽会		
事業所名	グループホーム陽 ユニットA		
所在地	大分県佐伯市大字長良4652番地		
自己評価作成日	平成25年3月13日	評価結果市町村受理日	平成25年11月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年3月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で自分の役割をもち、豊かで安心した生活が送れるように、個々の持っている能力に対して最大限の力が発揮できる場所を提供する。今「できること」で自信を持ち、何気ない日常を生きる幸せをかんじてもらえるように笑顔が耐えない、笑いがある施設に心がけている。環境に恵まれていることから、散歩をする中で四季折々の自然が感じられ機会も多く「心も体も自由」な施設に努めている。普通の暮らしが継続できるように支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食べることを大切にしており、手作りの米や野菜を使い、美味しく口から食べるよう支援している。手作りの漬物など、家庭的な雰囲気です。隣に法人の託児所があり、定期的に子どもたちとの交流を楽しんでいる。掃除がいきとどき、清潔な生活ができるよう配慮している。和風の木造家屋でのんびりと心地良く暮らしている。また、法人内の敷地が広く、花や木々に囲まれ季節感豊かである。毎月避難訓練を実施している。津波発生時は地域を含めた避難棟が隣接施設に設けられている。地域消防団と火災や災害発生時の救助体制もできている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で地域と共に生きる」をモットーに挨拶・笑顔・掃除を基本に信頼される施設作りに努めるを理念とし、共有して実践している。	玄関の見やすい位置に掲示し、職員や来客と共有している。笑顔でのケア、掃除は毎日行い、きれいに清潔に過ごせるよう実践している。日頃から地域の方や家族、利用者に挨拶するよう心掛けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや行事等に地域の方に来て頂き交流を深めている。	押し花や折り紙など地域の方がボランティアで教室を開き、地域の方々へ呼び掛け、利用者と一緒に楽しんでいる。法人が地域の福祉拠点となり、盆踊りや運動会を開いている。津波や災害時に備え、災害棟に避難できるよう取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や法人内のケアハウスの入居者の方との交流会を行うことで認知症の人の理解をしてくれている。行事の時には援助支援や見守りなどを快く引き受けてくれる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、入居者の生活状況、事業所の近況を報告すると共にサービスの提供について話し合いを行っている。各委員や家族の意見を参考にサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催し、地域の代表から様々な意見や、市からの助言など効果的に会議が行われている。火災や災害、特に津波被害が懸念されるため、地域全体を見据えての話し合いがされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員に相談に応じてもらっている。また、運営推進会議の際には担当者にアドバイス等もらっている。	市担当者とケアの問題点や入院時の対応、外部評価について相談し、具体的なアドバイスや指導を受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の施設として職員一同理解している。個々の尊厳と人権を守るために拘束をしないケアを行っている。玄関等の施錠はしない暮らしを継続している。	法人全体で身体拘束ゼロ宣言をし、身体拘束をしないケアをめざし研修している。玄関は開放し、自由に出入りができる。本人のリスクを配慮し毛布に鈴をつけ、すぐに支援に行けるよう工夫している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての話し合いを行い常に意識向上に努め、日常業務の中で見過ごされることがないように注意を払い努めている。		

事業者名: グループホーム陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	個々の必要性については話し合いを行っているが、活用には至っていない。必要な場合は活用できるように支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約について重要事項説明書やその他に入所前には施設の取り組みケアの内容についても話す機会を設けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の福祉サービス相談委員会を2ヶ月に1回行い苦情相談を受けている。家族とは常にコミュニケーションを図り苦情や要望などの意見を明確に対応していると思っている。	手紙や電話で情報を伝えている。十分な話し合いが出来難いが、家族アンケートなど家族の意見や要望を聞き、運営に反映するよう取り組み中である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の実情や日々のサービスに対する意見や提案を聞く機会や話し合いを設け職員の声を業務に反映し働きやすく意欲ある職場作りをしている。	職員は、定例会議で意見を出し合い、業務に反映している。日常の支援においても、アイデアや気付きを出し合い、よりスムーズな動きができるよう話し合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回実施の自己評価表により、業務上の把握をしている。資格手当等の見直し等により向上心を持って働けるよう職場環境は整っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務やケアに必要な勉強会を行い、知識、技術の向上に努めている。研修会にも適時参加を行い、資格取得の為に法人内では勉強会が行われている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや他施設の職員の見学等の受け入れを行いお互いに情報提供を行ったりと交流を図りサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまでは本人に会って施設の説明をしたり、安心して頂く関係作りをしている。本人の意思や思いを受け止めるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には施設見学を行ってもらっている。家族の要望や意見が話せる機会を設け、信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や入所希望があった時、家族の必要としている支援を考え、他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力に応じた支援の中で介護される立場でなく喜びや楽しみを共有しお互いを向上させ信頼関係を築いている。職員が助けってもらうことがあり、支えあっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のペースに合わせ、本人と家族との絆を大切に、家族と連絡を密にしてコミュニケーションを図り共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまで大切にしていた人や場所と関係が途切れないように、美容院にでかけたり、家族や知人と外出、手紙の発送の支援等も行っている。	知人や友人の面会や、馴染みの美容院などに出掛けている。隣接の法人内託児所の子どもたちと交流し、馴染みの関係ができていいる。ホームから特別養護老人ホームへ移った方にも会いに行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話や態度の把握を常に行い、共に支えあえるように支援し孤立することがないように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所した方のもとへ訪問したりしている。家族には手紙を出したり、行事の際には案内状を送ったりと交流を図っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。話し合いを行い本人の望むよい暮らしができるようにしている。	一人ひとりの思いを、職員がそれぞれに掴み支援に活かしている。職員は、利用者本位のケアを目指しているが、詳細なその人らしい情報が少なく、職員間での共有が不足している。	情報を引出し、日常の支援から気付いた内容を職員間で共有して支援に活かせる工夫が期待される。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、環境、馴染みの暮らし方について職員が情報を共有して把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状の把握についても職員で情報を共有し、個々のできることの理解を行い支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問時等を利用して話し合いを設け、職員間で情報を共有し3ヶ月～6ヶ月に見直しを行い、新しい情報、変化等を取り入れプランに反映し立案している。	本人や家族から意見を聞き取り、要望を反映している。6ヶ月ごとにプランを作成、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、状況の変化によりプランの変更をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきについて個別に記録し職員間で情報を共有しながら実践している。ケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて通院支援や外出の支援している。家族の希望に応じて支援できるように取り組んでいる。		

事業者名: グループホーム陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが楽しめるようにボランティアによる訪問、学校関係の学生の訪問等の受け入れている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が火曜日に行われている。(一人ひとは月に2回)緊急時においても適切な医療を受けられるように支援している。	希望により、専門のかかりつけ医療機関を利用している。ホームとしての連携医療機関の医師が定期的に往診、緊急時も対応が可能となっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師との連携が出来るので緊急時には適切な対応が出来る。また、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の地域連携室の相談員の方や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換や連絡を密に行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度になった時の事を家族と話し合いを行い、確認を行っている。他の施設の利用についても考えて支援を行っている。	入居時に重度化について説明し、話し合っている。常時、医療行為が必要となった時や、グループホームとしての対応が困難となった時には、再度話し合い、法人内の特別養護老人ホームや医療施設など、より適した支援に繋げている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員の意識を高める為に勉強会を行っている。定期的には出来ないが、緊急時には適切に対応ができています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に沿って毎月1回の避難訓練を行っている。法人が地域の避難場所にもなっていることから協力も得られている。	地震や津波を想定した訓練を中心に、ほぼ毎月避難訓練をしている。水害経験から2階に避難でき、津波用避難棟も隣接して建設中であり、地域全体の避難場所となっている。火災、夜間想定訓練も行い、地域消防団の協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で言葉遣いや視線に気をつけ対応している。職員でプライバシーに配慮している。	利用者の気持ちを大切に声掛けを行っている。プライドに配慮してトイレ誘導をしている。認知症に対する理解や尊厳を深める活動を、施設長を中心に市内で行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思い希望を表したり、自己決定できるように、洋服や飲み物の選択など支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に本人の思いや希望に添ったケア、支援するように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えることにより生活意欲につながる。その人らしいおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人からの給食がある為、盛り付けを行っている。入居者の方と片付けを行ったりしている。好みについては栄養士と常に話をして要望を取り入れてもらっている。	職員とテーブルを囲み、同じものを楽しく、食べている。摂食状況に応じた調理方法や介助支援である。口から食べることや旬の食材を美味しく食べることなどを大切に、毎月1日の赤飯を楽しみにしている。漬物など職員が手作りしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士による献立により栄養がかたよらないようにバランスがとれている。また、食事量、水分量も把握できている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯の手入れの声かけや個々に合わせた介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにより個々の対応に努めている。トイレ介助、声かけで行っている。	できるだけトイレで自力による排泄ができるよう支援している。一人ひとりのパターンを把握して、タイミングを見ながら誘導している。リハビリパンツの利用により、下着感覚での排泄で自立を促している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動への働きかけ、個々の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	檜風呂で週に3回を目安に個々で行っている。入浴剤などで楽しんでいる。	週2回から3回の入浴で、体調や希望に添った支援をしている。檜風呂でほとんどの利用者が入浴を嫌がらず楽しんでいる。入浴の順番は希望や状況に即して行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は自由で個別。個々の生活習慣や状況にあわせて、安心して眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬については職員間で情報を共有し、十分に注意を払い支援している。服薬後の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いある日々が過ごせるように楽しみごと、気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日頃は散歩に出かけてりできるだけ支援に努めている。本人の希望があれば日頃いけない場所でも、家族などに協力してもらい支援している。	法人施設内が広く、季節の草花や様々な木々の庭を散歩ができ、観音様参り、庭先での体操やお茶飲みをなど楽しんでいる。家族の協力で外出することが多い。	



事業者名: グループホーム陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については家族が管理している方がほとんどです。職員はお金を持つことの大切さは理解している。お金を所持している方にたいしては支援に努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話についてはプライバシーに配慮しながら支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも生花を生けている。日常生活で共有スペースでは家庭的な雰囲気を味わって頂ける様に季節感を取り入れて居心地よく過ごせるように工夫している。	広くゆったりとした空間で、家具や床材、壁がダークブラウンの落ち着いた雰囲気である。食べるところ、くつろぐところ、神棚に手を合わせるところとそれぞれの場所があり、開放感がある。居間は、間接照明で日光が差し込む窓がないため、職員は明るく感じられるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは自由につかえ気のあった同士が過ごせるようしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の写真や花、観葉植物、ソファ等個々の使い慣れたものや思い出のもので居心地よく過ごせるように工夫している。	全室が明るく外の眺めも良い。好きな花や家族写真、仏壇や遺影に囲まれ、ソファでのんびり過ごせる配慮がみられる。また、縫いぐるみや思いのこもった小物を飾り、体調に合わせた家具の配置など、その人らしく過ごせる支援をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の生活能力に合わせて出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470500408		
法人名	社会福祉法人 長陽会		
事業所名	グループホーム陽 ユニットB		
所在地	大分県佐伯市大字長良4652番地		
自己評価作成日	平成25年3月13日	評価結果市町村受理日	平成25年11月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年3月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日々の生活の中で自分の役割をもち、豊かで安心した生活が送れるように、個々の持っている能力に対して最大限の力が発揮できる場所を提供する。今「できること」で自信を持ち、何気ない日常を生きる幸せをかんじてもらえるように笑顔が耐えない、笑いがある施設に心がけている。環境に恵まれていることから、散歩をする中で四季折々の自然が感じられ機会も多く「心も体も自由」な施設に努めている。普通の暮らしが継続できるように支援している。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(ユニットAと同様)</p>
-------------------

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で地域と共々生きる」をモットーに挨拶・笑顔・掃除を基本に信頼される施設作りに努めるを理念とし、共有して実践している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや行事等に地域の方に来て頂き交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や法人内のケアハウスの入居者の方との交流会を行うことで認知症の人の理解をしてくれている。行事の時には援助支援や見守りなどを快く引き受けてくれる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、入居者の生活状況、事業所の近況を報告すると共にサービスの提供について話し合いを行っている。各委員や家族の意見を参考にサービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員に相談に応じてもらっている。また、運営推進会議の際には担当者にアドバイス等もらっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の施設として職員一同理解している。個々の尊厳と人権を守るために拘束をしないケアを行っている。玄関等の施錠はしない暮らしを継続している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての話し合いを行い常に意識向上に努め、日常業務の中で見過ごされることがないように注意を払い努めている。		

事業者名: グループホーム陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	個々の必要性については話し合いを行っているが、活用には至っていない。必要な場合は活用できるように支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約について重要事項説明書やその他に入所前には施設の取り組みケアの内容についても話す機会を設けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の福祉サービス相談委員会を2ヶ月に1回行い苦情相談を受けている。家族とは常にコミュニケーションを図り苦情や要望などの意見を明確に対応していると思っている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の実情や日々のサービスに対する意見や提案を聞く機会や話し合いを設け職員の声を業務に反映し働きやすく意欲ある職場作りをしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回実施の自己評価表により、業務上の把握をしている。資格手当等の見直し等により向上心を持って働けるよう職場環境は整っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務やケアに必要な勉強会を行い、知識、技術の向上に努めている。研修会にも適時参加を行い、資格取得の為に法人内では勉強会が行われている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや他施設の職員の見学等の受け入れを行いお互いに情報提供を行ったりと交流を図りサービスの向上に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまでは本人に会って施設の説明をしたり、安心して頂く関係作りをしている。本人の意思や思いを受け止めるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には施設見学を行ってもらっている。家族の要望や意見が話せる機会を設け、信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や入所希望があった時、家族の必要としている支援を考え、他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力に応じた支援の中で介護される立場でなく喜びや楽しみを共有しお互いを向上させ信頼関係を築いている。職員が助けてもらうことがあり、支えあっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のペースに合わせ、本人と家族との絆を大切に、家族と連絡を密にしてコミュニケーションを図り共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまで大切にしていた人や場所と関係が途切れないように、美容院にでかけたり、家族や知人と外出、手紙の発送の支援等も行っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話や態度の把握を常に行い、共に支えあえるように支援し孤立することがないように努めている。		

事業者名: グループホーム陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所した方のもとへ訪問したりしている。家族には手紙を出したり、行事時には案内状を送ったりと交流を図っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。話し合いを行い本人の望むよい暮らしができるようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、環境、馴染みの暮らし方について職員が情報を共有して把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状の把握についても職員で情報を共有し、個々のできることへの理解を行い支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問時等を利用して話し合いを設け、職員間で情報を共有し3ヶ月～6ヶ月に見直しを行い、新しい情報、変化等を取り入れプランに反映し立案している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきについて個別に記録し職員間で情報を共有しながら実践している。ケアプランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて通院支援や外出の支援している。家族の希望に応じて支援できるように取り組んでいる。		

事業者名: グループホーム陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが楽しめるようにボランティアによる訪問、学校関係の学生の訪問等の受け入れている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が火曜日に行われている。(一人ひとは月に2回)緊急時においても適切な医療を受けられるように支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師との連携が出来ているので緊急時には適切な対応が出来る。また、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の地域連携室の相談員の方や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換や連絡を密に行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度になった時の事を家族と話し合いを行い、確認を行っている。他の施設の利用についても考えて支援を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員の意識を高める為に勉強会を行っている。定期的には出来ないが、緊急時には適切に対応ができています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に沿って毎月1回の避難訓練を行っている。法人が地域の避難場所にもなっていることから協力も得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で言葉遣いや視線に気をつけ対応している。職員でプライバシーに配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思い希望を表したり、自己決定できるように、洋服や飲み物の選択など支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に本人の思いや希望に添ったケア、支援するように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えることにより生活意欲につながる。その人らしいおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人からの給食がある為、盛り付けを行っている。入居者の方と片付けを行ったりしている。好みについては栄養士と常に話をして要望を取り入れてもらっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士による献立により栄養がかたよらないようにバランスがとれている。また、食事量、水分量も把握できている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯の手入れの声かけや個々に合わせた介助を行っている。		



事業者名: グループホーム陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにより個々の対応に努めている。トイレ介助、声かけで行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動への働きかけ、個々の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	檜風呂で週に3回を目安に個々で行っている。入浴剤などで楽しんでいる。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は自由で個別。個々の生活習慣や状況にあわせて、安心して眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬については職員間で情報を共有し、十分に注意を払い支援している。服薬後の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いある日々が過ごせるように楽しみごと、気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は散歩に出かけてりできるだけ支援に努めている。本人の希望があれば日頃いけない場所でも、家族などに協力してもらい支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については家族が管理している方がほとんどです。職員はお金を持つことの大切さは理解している。お金を所持している方にたいしては支援に努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話についてはプライバシーに配慮しながら支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも生花を生けている。日常生活で共有スペースでは家庭的な雰囲気を味わって頂ける様に季節感を取り入れて居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは自由につかえ気のあった同士が過ごせるようしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の写真や花、観葉植物、ソファ等個々の使い慣れたものや思い出のもので居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の生活能力に合わせて出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		